

新米シーズン告げるはぎ掛け

「こしいぶき」から新米の販売開始

三条市

道の駅漢学の里しただ、いい湯らてい



新米シーズンを迎え、三条市庭月、道の駅漢学の里しただと三条市南五百川、八木ヶ鼻温泉いい湯らていは七日から、稲のはぎ掛けで来店客を迎えている。

地元の農事組合法人に同日から、わせ品種の三連休には出てくるならの里の協力で、毎「こしいぶき」の新米のでは。

年この時期に行つてい販売。特別栽培米がるもので、道の駅では三きで二千四百円と、正面玄關脇のがん木の米価上昇の中では手頃軒下、いい湯らていは感もあり、売れ行きは正面玄關前にはぎを組上々という。

み、刈り取つたばかり同道の駅によると主の「コシヒカリ」を掛力のコシヒカリは九月けており、周囲には稲中旬から出品が始まるわらの香ばしい匂い。見通して、「早い生産合わせて両施設とも者さんでは、敬老の日

れたところや、田んぼがぬかるんだところもあり、稲刈りの作業は大変になりそう」との声もあり、天候不順に振り回される米作りとなっている。

「こしいぶき」の新米から販売開始



道の駅漢学の里しただのはぎ掛け

いい湯らていのはぎ掛け